

# 2023年3月期 第3四半期 決算説明会

ウシオ電機株式会社  
2023年2月3日

<免責事項>本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

\*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

Copyright © 2022 Ushio Inc., All Rights Reserved

未来は光でおもしろくなる

# USHIO

ウシオ電機、経営統括本部長の朝日です。

本日ウェブサイトにて開示しました決算資料にもとづき、2023年3月期 第3四半期決算の内容をご説明させていただきます。

それでは、スライド2ページをご覧ください。

1. 2022年度 3Q実績は **増収増益**
2. 2022年度 通期業績予想を **下方修正**

本日、お伝えしたいことは記載の2つで、2022年度 第3四半期累計の業績は、引き続き前年同期比で増収増益が継続しました。

ただし、半導体市況の悪化や部材不足問題の長期化など、第4四半期において厳しい環境が想定されるため、2022年度の通期業績予想を下方修正いたします。  
詳しくは、後程、ご説明致します。

なお、1株当たり配当額については、変更なく50円を予定しています。  
スライド4ページをご覧ください。

I. 2022年度 3Q業績概要

II. 2022年度 今後の見通し

III. 参考資料

<b>売上高</b>  3Q実績 <b>1,283億円</b>	<b>前年同期比：186億円増 (+17.0%)</b>  円安による増収効果 需要増による増収（光学装置_UV装置） 新型コロナ影響からの回復（映像装置_一般映像）
<b>営業利益</b>  3Q実績 <b>135億円</b>	<b>前年同期比：27億円増 (+25.2%)</b>  増収による増益（為替影響含む） 構造改革等による固定費抑制効果
親会社株主に帰属する <b>四半期純利益</b>  3Q実績 <b>120億円</b>	<b>前年同期比：18億円増 (+18.6%)</b>  【営業外収支】為替差損益 25億円（2021年度：0億円） 【特別利益】固定資産売却益 1億円（2021年度：11億円）

第3四半期の業績サマリーですが、売上高は、17.0%増収の1,283億円。

これは、為替が円安に推移したこと。  
半導体パッケージ基板向け市場の拡大に伴う光学装置の販売が増加したこと。  
映像装置がコロナ影響から回復し販売が増加したことによるものです。

営業利益は、25.2%増益の135億円。

これは、増収による増益に加え、構造改革や働き方改革推進による固定費削減効果により、販管費率を前期レベルに抑制したことによるものです。

なお、為替がUSドルで前年同期比25円 円安となったことから、売上高で約160億円、営業利益で約20億円の押し上げ効果がありました。

四半期純利益は、18.6%増益の120億円となりました。  
営業外収支で、円安による外貨建て債権等の換算により、為替差益25億円を計上しました。

続いて、営業利益の増減内容を、ステップチャートでご説明致しますので、  
スライド6ページをご覧ください。

売上高・損益

USHIO

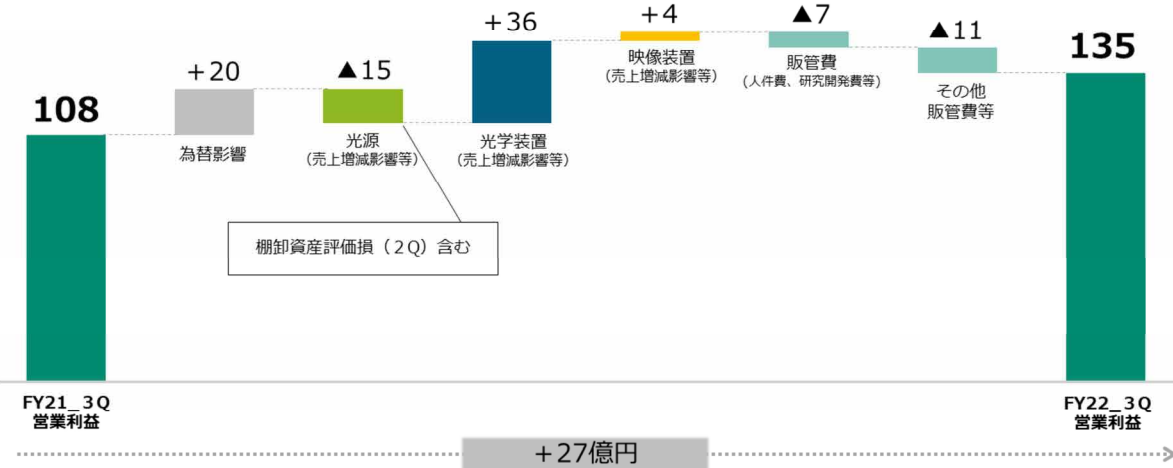
	(億円)	2021年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	前年同期比	
				増減額	増減率
<b>売上高</b>		1,097	1,283	+186	+17.0%
<b>営業利益</b>		108	135	+27	+25.2%
<b>営業利益率</b>		9.9%	10.5%	+0.7P	-
<b>経常利益</b>		125	180	+54	+43.6%
<b>親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>		101	120	+18	+18.6%
<b>EPS (円)</b>		84.48	101.81	+17.33	+20.5%
<b>為替レート (円)</b>	USD	111	136	+25	-
	EUR	131	140	+9	-

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 5

## 前年同期比 営業利益増減分析

USHIO

単位：億円



注：「光源（売上増減影響等）」～「その他販管費等」は、「為替影響」を除いた金額

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 6

営業利益27億円の増益要因ですが、まず、為替が円安となったことで、20億円の増益。

光源については、UVランプの減収や第2四半期に計上したナトリウムランプの棚卸資産評価損の影響により為替を除く売上総利益ベースで減益となりました。

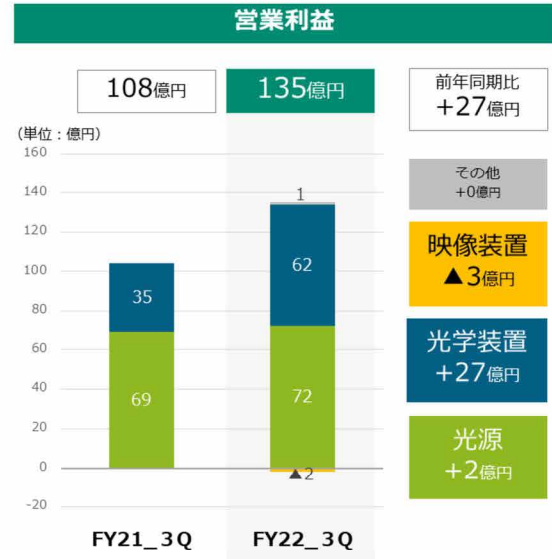
一方、光学装置では、各種露光装置の販売が増加したことで、36億円の増益となりました。

販管費は、コロナ影響からの需要回復や市場成長により活動経費などが増加していますが、経費コントロールを継続し、売上高販管比率は、横ばいを維持しています。

続いて、セグメント別の業績をご説明致します。  
スライド7ページをご覧ください。

## セグメント別 売上高、営業利益

USHIO



Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 7

セグメント別売上高は、すべてのセグメントで増収となりましたが、営業利益では、映像装置が減益となりました。

各セグメントの内容は、このあとご説明致します。  
続いて、スライド8ページをご覧ください。

## 共通

世界的な半導体等の部材不足による影響が、一部事業で継続  
部材コスト上昇、エネルギー価格及び物流費高騰の影響が、一部事業で発生

エレクトロニクス  
分野

半導体は中長期では成長も足元は調整の動きあり 液晶は稼働調整局面へ

- FPD市場は、液晶の巣ごもり需要一巡及び在庫調整により稼働調整局面へ
- 半導体市場は、IoTや5G等の進展で中長期の成長を見込むも、足元は最終需要減速により一部調整の動き
- 最先端ICパッケージ市場は、IoT等の進展でデータセンター需要増の傾向は継続 高速化・低消費電力化等のニーズに対し技術革新の必要性もあり需要は堅調

ビジュアル  
イメージング  
分野

新型コロナウイルス感染症から各国の経済活動再開により市場は回復

- シネマ市場は、映画館の稼働が中国を除き回復 ただし設備投資の本回復は2023年度以降を見込む 中国市場のみゼロコロナ政策により稼働低調も、ウィズコロナへの政策転換により回復のきざし
- 一般映像市場は、イベント等の規制解除や再開により投資が回復
- OA機器市場は、新型コロナ影響から需要は回復 セットメーカーでの部材不足による影響も緩和

最新の事業環境についてご説明致します。

半導体等の部材不足問題は、映像装置や光学装置の一部で影響が継続。  
また、部材の調達コストや、エネルギー価格、物流費などの高騰も継続しており、業績への影響が出始めていますが、価格への反映や原価改善等により、影響抑制の取り組みを進めています。

エレクトロニクス分野については、半導体において中長期での成長を見込んでいるものの、足元は生産調整の動きがあり、業績影響が出始めています。

ビジュアルイメージング分野では、中国でのゼロコロナ政策の長期化により、映画館の稼働が低調となり、業績への影響が出ました。今後は、ウィズコロナへの政策転換により、中国のシネマ市場の回復が見込まれます。

続いて、セグメント別の状況についてご説明致します。  
スライド9ページをご覧ください。



(億円)	2021年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	432	475	+43	+10.0%
放電ランプ	289	301	+11	+3.9%
ハロゲンランプ	77	100	+23	+29.8%
固体光源	64	73	+8	+13.8%
営業利益	69	72	+2	+3.6%
営業利益率	16.2%	15.2%	▲1.0P	-

## 放電ランプ 売上高増減の主な内訳（前年同期比）

- ・UVランプ（▲4億円、▲4%）  
半導体・電子デバイスは販売が増加も、液晶パネルは需要一巡で販売が減少
- ・シネマ用ランプ（+19億円、+36%）  
新型コロナ影響から映画館の稼働が回復し販売が増加 為替により増収
- ・データプロジェクター用ランプ（+10億円、+37%）  
イベントなどの回復によりハイエンドプロジェクター向け販売が増加
- ・光学機器用ランプ（+2億円、+5%）  
液晶パネル向けの販売が減少も、為替により増収
- ・その他（▲17億円、▲47%）  
ナトリウムランプが固体光源化の影響により販売が減少

## ハロゲンランプ 売上高増減の主な内訳（前年同期比）

- ・OA用ランプ（+13億円、+42%）  
セットメーカーの部材不足影響が緩和し、販売が増加
- ・その他（+8億円、+27%）  
半導体需要増に伴い、主に半導体向け熱処理用ランプの販売が増加

## 固体光源 売上高増減の主な内訳（前年同期比）

- ・固体光源（+8億円、+14%）  
エンタメ、センシング関連需要が回復し販売が増加 為替により増収

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved

9

光源セグメントは増収増益となりました。

売上高は、10%増収の475億円。営業利益は、3.6%増益の72億円となりました。

新型コロナ影響を受けた前年同期から、映画館の稼働やイベントの回復、セットメーカーでの部材不足影響の緩和などにより、シネマ用及びデータプロジェクター用、OA用ランプの販売が増加し、加えて円安効果もあり、増収に貢献しました。

一方で、液晶パネルの巣ごもり需要一巡に加え、高稼働が続いた半導体においても生産調整の影響が出始め、UVランプは販売が減少。

また、急速な固体光源化による需要減少によりナトリウムランプの販売は減少しました。

Care222関連製品の販売も低調でした。

営業利益は、増収及び円安による増益効果がありましたが、第2四半期に計上した棚卸資産評価損の影響もあり、横ばいとなりました。

続いて、装置事業についてスライド10ページでご説明致します。

## 光学装置

	2021年度 3Q実績 (億円)	2022年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	353	416	+63	+17.9%
営業利益	35	62	+27	+78.4%
営業利益率	10.0%	15.1%	+5.1P	-

売上高増減の主な内訳（前年同期比）

- ・UV装置（+82億円、+41%）  
最先端ICパッケージ基板向けの投影露光及びダイレクトイメージング露光装置の販売が増加
- ・キュア装置（▲21億円、▲51%）  
液晶パネル需要一巡で設備投資が縮小し、関連装置の販売が減少
- ・その他（+2億円、+2%）  
EUVは光源本体の販売が減少も、メンテナンスは増加

## 映像装置

	2021年度 3Q実績 (億円)	2022年度 3Q実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	287	362	+75	+26.3%
営業利益	0	▲2	▲3	-
営業利益率	0.3%	▲0.7%	▲1.0P	-

売上高増減の主な内訳（前年同期比）

- ・シネマ（+10億円、+8%）  
為替により増収、DCPの販売は、部材調達影響により減少
- ・一般映像（+58億円、+42%）  
北米市場を中心にイベント等の回復により関連装置の販売が増加

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 10

光学装置は、売上高で17.9%増収の416億円。営業利益は78.4%増益の62億円となりました。

半導体のパッケージ需要拡大により、UV装置に含まれる各露光装置販売が増加。また、その他に含まれる、EUVマスク検査用光源は、光源本体の販売は調整局面にあり減少も、稼働中の光源メンテナンスは順調に推移し売上が増加しました。

一方で、液晶パネル需要一巡による設備投資縮小で、キュア装置は販売が減少しました。

続いて、映像装置ですが、売上高は、26.3%増収の362億円。営業利益は3億円減益の2億円の赤字となりました。

シネマは部材不足影響が長期化していることでデジタルシネマプロジェクターの販売が減少も、円安による増収効果がありました。

一般映像ではイベント規制の解除により、北米中心に設備投資が回復したことで、関連製品の販売が増加し増収となりました。

ただし、部品価格が高騰していることから、営業利益は減益となりました。

続いて、今期の見通しについてご説明致します。  
スライド12ページをご覧ください。

I. 2022年度 3Q業績概要

II. 2022年度 今後の見通し

III. 参考資料

2022年度 通期業績予想

半導体市況の悪化や中国ゼロコロナ政策の長期化、部材価格の高騰による影響により下方修正

(億円)	2022年度 通期予想 修正			2022年度		2021年度		修正値との 差異	増減率
	今回	前回 2022.11.2	差異	3 Q	進捗率*	通期			
売上高	1,700	1,700	-	1,283	75.5%	1,488	+211	+14.2%	
営業利益	150	170	▲20	135	90.2%	130	+19	+14.8%	
営業利益率 (%)	8.8%	10.0%	▲1.2P	10.5%	-	8.8%	+0.0P	-	
経常利益	195	185	+10	180	92.5%	151	+43	+28.3%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	140	▲10	120	92.9%	126	+3	+3.1%	
EPS (円)	109.78	117.79	▲8.01	101.81	92.7%	104.54	+5.24	+5.0%	
ROE (%)	5.5	5.9	▲0.4P	5.1	-	5.7	▲0.2	-	
年間配当 (円)	50	50	-	50	-	50	-	-	
為替レート (円)	USD	133*	126	+7	136	-	112	+21	-
	EUR	139*	134	+5	140	-	131	+8	-

為替感応度：  
1円変動による影響額 (通期)

	売上高	営業利益
対USD	約8億円	約1.0億円

\* 4 Q以降の為替レート前提 USD : 130円、EUR : 140円

\* 今回修正後の通期予想に対する進捗率

通期の業績予想は、市況環境の変化を鑑み、下期業績が想定を下回り推移する見込みから、営業利益以下を下方修正する判断をしました。

また、経常利益以下については、営業利益の修正に加え、第3四半期までの円安進行による為替差益や税率の見直しを加味し、修正しています。

為替の前提は、第4四半期はUSドルで130円、ユーロで140円を想定し、通期でUSドル133円、ユーロで139円に見直します。

なお、市況環境の変化に伴い、為替感応度も変更しております。

続いて、次ページ以降で、各セグメントの修正内容を、第4四半期事業環境予想と合わせ、ご説明致します。

スライド13ページをご覧ください。

セグメント別 売上高、営業利益 通期業績予想 修正内容

(億円)		今回	前回修正値 2022.11.2	差異	修正理由
光源	売上高	590	630	▲40	・ナトリウムランプの棚卸資産評価損計上（2Q） ・半導体市況の悪化（UVランプ） ・中国ゼロコロナ政策の長期化（シネマ用ランプ）
	営業利益	77	98	▲21	
	営業利益率	13.1%	15.6%	▲2.5 P	
光学装置	売上高	560	550	+10	・保守メンテナンス機会の増加 ・コスト抑制
	営業利益	80	70	+10	
	営業利益率	14.3%	12.7%	+1.6P	
映像装置	売上高	510	480	+30	・部材不足問題に伴う部材価格の高騰
	営業利益	▲9	0	▲9	
	営業利益率	▲1.8%	0.0%	▲1.8P	
その他	売上高	40	40	-	
	営業利益	2	2	-	
	営業利益率	5.0%	5.0%	-	
連結合計	売上高	1,700	1,700	-	
	営業利益	150	170	▲20	
	営業利益率	8.8%	10.0%	▲1.2 P	

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 13

まず、光源及び映像装置の通期業績見通しを下方修正しました。

光源は、第2四半期に計上したナトリウムランプの需要減に伴う棚卸資産評価損の計上に加え、半導体市況の想定以上の悪化によるUVランプ販売の落ち込みや、ゼロコロナ政策によるシネマ用ランプの中国市場の回復遅れで、下期の業績予想が想定を下回る見込みのためです。

映像装置は、期初から生じている部材不足による機会損失に加え、部材の価格高騰による仕入価格が想定以上に上がり、利益率を悪化させています。

一方で、光学装置は全般的に順調に推移しており、納入済みの装置の稼働が高まっていることから、更なる保守メンテナンスの増加やコスト抑制により、通期業績見通しを上方修正しました。

続いて、第4四半期のセグメント別事業環境想定をスライド14ページでご説明致します。

セグメント別 売上高、営業利益 通期業績予想

USHIO

(億円)		2021年度 通期実績	2022年度					4Q 事業環境想定
			3Q実績	通期予想 (修正後)	前期比		3Q 進捗率	
					増減額	増減率		
光源	売上高	578	475	590	+11	+2.1%	80.6%	<b>光源</b> ・UVランプ 液晶パネル向け及び半導体向けともに調整局面が継続し低調 ・シネマ用ランプ 中国でウイズコロナへ政策転換も、需要回復は来期を見込む ・OA用、データプロジェクター用ランプ 中国旧正月で生産稼働が低下 ・為替は3Qまでの円安傾向から円高へ
	営業利益	82	72	77	▲5	▲7.1%	94.1%	
	営業利益率	14.3%	15.2%	13.1%	▲1.3P	-	-	
光学装置	売上高	483	416	560	+76	+15.7%	74.3%	<b>光学装置</b> ・最先端IC：売上が上期偏重により、一時的に販売が減少 ・DI露光：期末に向け売上が増加 ・EUV光源：メンテナンス堅調も、光源本体販売は低調
	営業利益	46	62	80	+33	+73.2%	78.6%	
	営業利益率	9.5%	15.1%	14.3%	+4.7P	-	-	
映像装置	売上高	391	362	510	+118	+30.2%	71.1%	<b>映像装置</b> ・シネマ 部材不足は緩和傾向でDCP販売は増加も、部品コストが高騰 ・一般映像 イベントは回復傾向 部材不足緩和でハイエンド機種販売増も 部品コストは高騰
	営業利益	▲0	▲2	▲9	▲8	-	-	
	営業利益率	▲0.1%	▲0.7%	▲1.8%	▲1.6P	-	-	
その他	売上高	34	28	40	+5	+15.9%	72.4%	
	営業利益	1	1	2	+0	+77.6%	69.4%	
	営業利益率	3.3%	4.8%	5.0%	+1.7P	-	-	
連結合計	売上高	1,488	1,283	1,700	+211	+14.2%	75.5%	
	営業利益	130	135	150	+19	+14.8%	90.2%	
	営業利益率	8.8%	10.5%	8.8%	+0.0P	-	-	

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 14

まず光源の第4四半期は大変厳しい業績予想となっています。

特に、液晶や半導体の一時的な生産調整の影響を受け、流通在庫が過剰気味となり、第4四半期のUVランプの販売は引き続き低迷する見込みです。

また、OA用やデータプロジェクター用ランプも、期初計画で織り込み済みですが、第4四半期は中国の旧正月で生産稼働が低下する見込みです。

第3四半期までの円安も一服することもあり、第4四半期は一時的に売上減少とともに、収益性が悪化する見込みです。

光学装置は順調に推移し、特に第4四半期は、ダイレクトイメージング露光装置の売上が集中する見込みです。なお、開発が第4四半期に集中することなどから利益率はやや低下する見込みです。

映像装置の第4四半期は、部材不足は緩和傾向で、シネマ及び一般映像ともに販売は上向いてくるものの、部品価格の高騰が継続し利益率の低下が続く見込みです。

続いて、光源事業の事業環境の補足と光学装置の有望製品の最新状況について、ご説明致します。スライド15ページをご覧ください。

項目	最新の状況
UVランプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体：足元は、メモリ・ロジックを中心とした需給調整により3Q以降ランプ需要が減少 中長期には成長拡大を見込む</li> <li>FPD：液晶の巣ごもり需要が一巡し、各パネルメーカーによる生産稼働の調整影響により、ランプ需要が2Q以降段階的に減少 中長期的には有機ELへの移行に伴う設備投資増加を見込む</li> </ul>
シネマ用ランプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国を除くシネマ市場は前年比回復傾向。中国は3Qまでゼロコロナ政策の影響により稼働低調も、ウィズコロナへの政策転換により海外コンテンツのリリースも再開され、徐々に稼働改善の見込み</li> <li>参考指標 世界平均スクリーン稼働率×上映回転率 3Q時点：7割強 → 4Q予想：8割</li> </ul>
Care222	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心・安全意識の高い医療施設や介護施設等を中心に販売活動を継続</li> <li>中長期の持続的成長拡大に向け戦略見直し → 対象マーケットを見定め、認知度不足解消、紫外線に対する安全性の理解浸透対策強化及び各種規制緩和などの課題に対する取り組みを継続</li> </ul> <div style="text-align: right;"> <p>売上高推移（見込）</p> <p>最新見通し ~10億円 見直し</p> </div>

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 15

UVランプについては、先ほどご説明した通り半導体及び液晶向けともに需要が低調に推移していますが、中長期での成長を見込んでいます。来期については、現在、精査中ですが、今期下期の低水準がしばらく続き、下期から徐々に需要が上向いてくると考えています。

シネマ用ランプは、市場全体の回復が進むなか、中国市場では、ゼロコロナ政策の影響が継続していました。しかし、今年に入り、ウィズコロナへの政策転換により劇場の稼働改善が進んでおり、ランプのリプレイス需要が徐々に回復していくことが期待されます。

Care222は、期初想定から低調な状況が続いており、最新の見通しでは、売上高は10億円を下回る見込みです。環境衛生への意識が高い医療施設や介護施設など中心に、中長期での成長拡大に向け、戦略の見直しを進めています。

続いて、光学装置の有望製品についてご説明致します。  
スライド16ページをご覧ください。

項目	最新の状況	売上高推移（見込）
最先端IC パッケージ基板向け 投影露光装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICパッケージ市場の成長継続により受注・引き合いは堅調。生産能力を段階的に増強 → 2022年度下期:1.3倍以上 → 2023年度:更に2倍以上へ</li> <li>次世代露光機へ開発投資（高生産性×微細化）</li> </ul>	
ダイレクト イメージング 露光装置	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT、5G等進展に伴いパッケージ・プリント基板市場成長継続</li> <li>高解像力モデル(2µmL/S)販売開始、2022年度より業績貢献 ターゲット：最先端ICパッケージ（Fan-out）、有機パッケージ基板市場等</li> </ul>	
EUVリソグラフィ マスク検査用 EUV光源	<ul style="list-style-type: none"> <li>EUVマスク検査市場は着実に成長も、2022年度は調整局面</li> <li>高輝度APMI*の本格採用は2024~25年度以降</li> <li>保守メンテナンスは高稼働で推移</li> </ul>	

\*APMI：Actinic Patterned Mask Defect Inspection（EUV光を使ったマスク欠陥検査装置）

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 16

最先端ICパッケージ基板向け露光装置は、引き続き、受注や引き合いは堅調に推移しています。ただし、足元の半導体市況の悪化により、来期以降の売上見込みが、後倒しとなる可能性が出ています。今後の需要拡大を見込んだ生産能力増強計画に現状大きな変更はありません。

ダイレクトイメージング露光装置についても、中長期で先端半導体パッケージ市場向けを中心としたハイエンド機種種の拡大を見込んでいます。

ただし、足元の半導体市況の悪化により、その成長が一時的に鈍化する可能性があり、動向を注視してまいります。

EUVマスク検査用光源については、調整局面が続いています。期初にご説明しておりますように光源に対しコストダウン要求があり、TCO削減などの取り組みを進め一定の成果は満たしてきましたが、現在要求レベルがさらに厳しくなっています。

EUVマスク検査市場の成長 及び Hi-NA化等によるAPMIの市場機会は高く、重点事業として進めていくことには変わりありませんが、今後の当事業の収益性への影響が大きいため、事業成長のためのあらゆる可能性について検討をしています。

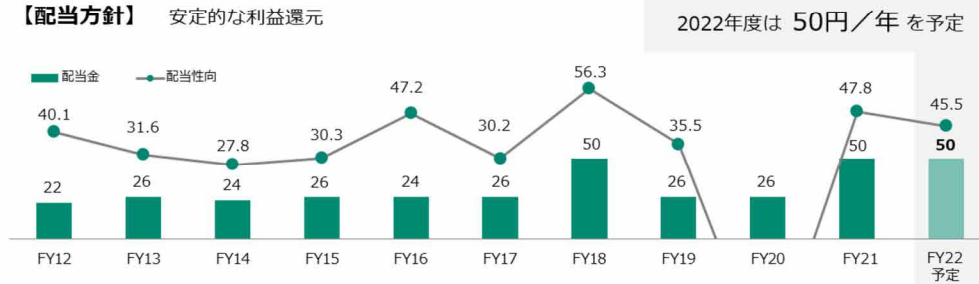
具体的には、次回の新中期経営計画の中で、お話をさせていただきたいと考えています。

最後に、株主還元についてご説明致します。スライド17ページをご覧ください。



1株当たり  
期末配当額

## 【配当方針】 安定的な利益還元



## 自社株買い

## 【自己株式取得の方針】

機動的に実施。なお、保有する自己株式は、発行済株式総数の5%を上限とし、発行済株式総数の5%を上回る部分については、毎年消却を実施

単位：億円



Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 17

2022年度の1株当たり配当額は、今回、通期業績予想を下方修正するものの、安定配当方針のもと計画通り50円配当を予定しています。

自社株式の取得については、期初に公表した50億円の買付が8月末で完了しています。また、本日、方針に従い5%を超える自己株式の消却を発表させていただいています。詳しくはリリースをご確認ください。

私からのご説明は以上となります。

I. 2022年度 3Q業績概要

II. 2022年度 今後の見通し

III. 参考資料

# USHIO

次世代半導体量産用EUV光源  
開発/生産/販売



(提供：TNO)

光源販売  
メンテナンス

マスク検査装置メーカー  
研究開発機関

半導体デバイスメーカー等

EUVリソグラフィの技術開発進展による次世代半導体の量産化ニーズ

検査、開発用光源のニーズ増大  
ウシオのEUV光源が貢献

マスク検査用EUV光源需要増加  
メンテナンス機会の増加

## ウシオのEUV光源開発の歴史

- 2000年 EUV光源開発開始
- 2001年 EUVA\*設立、参画
- 2013年 リソグラフィ用途から撤退
- 2016年 オランダ研究機関TNOへ EUV光源納入
- 2018年 検査用（評価用）初号機納入
- 2019年 量産ライン用初号機納入、検収

\*極端紫外線露光システム開発機構



## ■ウシオの強み

半導体業界での長いビジネス経験

+

長年積み重ねたEUV技術  
(コンパクト/高輝度/高出力)

## USHIO

最先端ICパッケージ基板向け  
分割投影露光装置 (UX-5)  
製造、販売

最先端・次世代パッケージ  
需要拡大

装置  
販売

パッケージ基板  
メーカー

チップ実装  
サーバー搭載

IoT進展に伴う大容量かつ高速データ処理用  
データセンター向けサーバーの需要増加

データセンター市場：年率20%以上成長（自社調べ）  
⇒ 次世代パッケージ基板の採用拡大

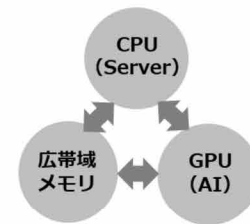
### ■世界シェア：100%維持

ハイエンドBGA基板露光市場（自社調べ）



### ■ウシオの強み

1. 大面積一括投影露光  
→ 高生産性、低CoO
2. マスクワーク非接触  
→ 歩留まり向上
3. 広い焦点深度  
→ プロセスマージン・基板反り対応
4. 高い解像力・重ね合わせ精度  
→ 配線ピッチ微細化、プロセスマージン





**ダイレクトイメージング  
露光装置**  
開発・製造・販売

- 微細化対応
- 高生産性



アプリケーションの革新に対応した  
プリント配線板需要の増加

**プリント配線板  
パッケージ基板  
メーカー**

- 高密度化
- 多層化

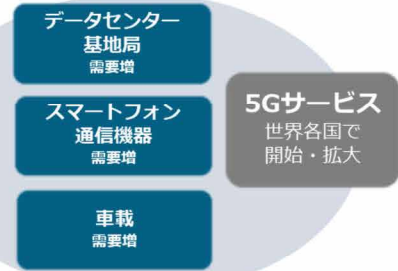
■ウシオの強み

高解像力(ハイエンド)  
世界最速の高生産性(ミドルエンド)  
+  
顧客本位の保守サポート能力



消費電力対応  
小型化対応

5G導入による  
各種アプリケーションの革新と需要の増加



■ 最先端半導体のFOパッケージ、有機パッケージ基板（先端BGA）などに向けた直描式露光装置を開発  
リリース全文（2021年7月12日発表）：  
<https://www.ushio.co.jp/news/1002/2021-2021/500818.html>



抗ウイルス・除菌用紫外線技術  
「Care222®」

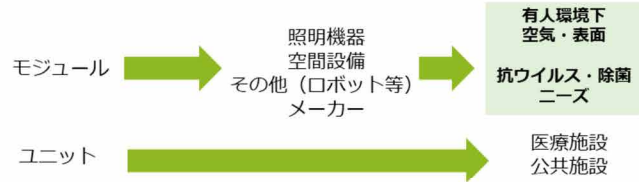


目指す姿：感染症の無い世界

有人環境下で空気・表面の抗ウイルス・除菌を行いたい  
というニーズ（安全・安心の提供）

■ウシオの強み

- ・紫外線除菌における独占ライセンス保有  
（コロンビア大学）
- ・空間形態に合わせた最適な照射プロセスの蓄積
- ・液晶・半導体業界で培った高品質のエキシマランプ・  
モジュール製造技術



取り組み	
STEP0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産体制確立・製品展開 協業開発、ニーズに合わせたラインナップ拡充</li> <li>・認知度・ブランド価値向上 展示会・広告出稿、ブランドサイト、販売パートナーとの協業</li> <li>・効果のエビデンス拡充・紫外線に対する理解浸透 学会発表・臨床研究の推進継続 ACGIH*改訂を機に、IEC規格*の改訂及び各国の規格緩和の促進</li> </ul>
STEP1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親和性の高い空間インフラ ⇒ MaaS市場/医療現場へ</li> </ul>

\*ACGIH：労働者の作業環境基準として薬品等の許容濃度（TLV）等のガイドラインを示す、アメリカ合衆国産業衛生専門家会議  
\*IEC規格：国際電気標準会議（International Electrotechnical Commission：IEC）

四半期推移《損益》

USHIO

(億円)	2021年度				2022年度			前年同期比		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率	
売上高	349	366	381	391	397	482	404	+22	+6.0%	
営業利益	25	39	42	22	44	56	34	▲8	▲19.5%	
営業利益率	7.4%	10.9%	11.1%	5.8%	11.3%	11.7%	8.5%	▲2.7P	-	
経常利益	33	43	48	26	62	73	43	▲4	▲9.9%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	33	31	36	24	38	56	25	▲11	▲30.3%	
EPS (円)	28.02	25.94	30.52	20.06	32.18	47.87	21.80	▲8.72	▲28.6%	
為替レート (円)	US D	110	110	113	115	126	137	144	+31	-
	EU R	132	130	130	129	137	140	144	+14	-

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 23

四半期推移《セグメント別損益》

USHIO

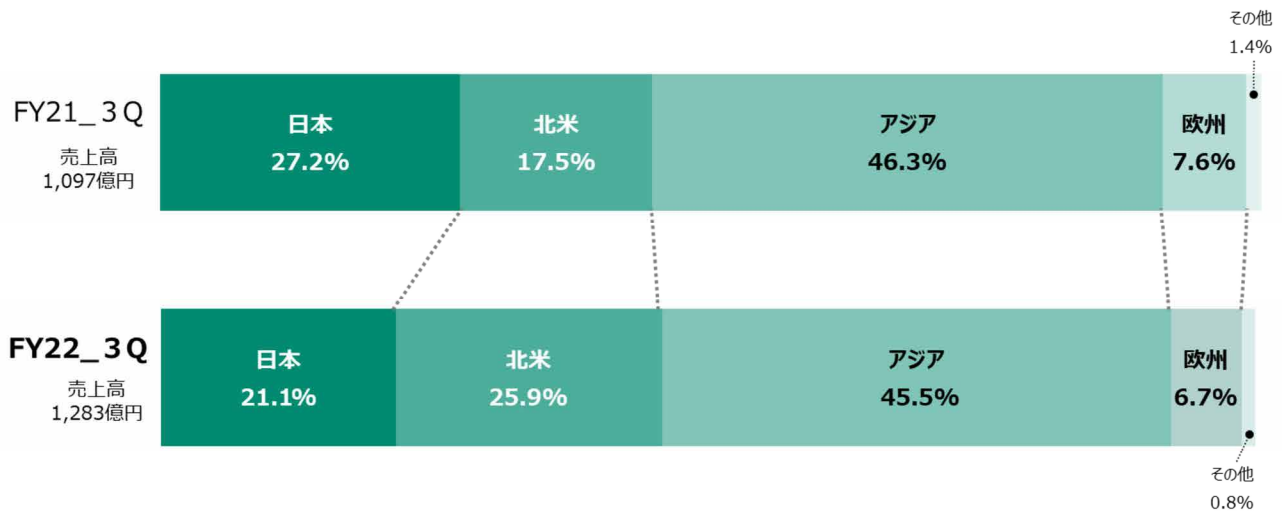
		2021年度				2022年度			前年同期比	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	増減額	増減率
光源	売上高	136	143	152	145	160	164	150	▲1	▲1.1%
	営業利益	19	25	24	12	31	20	21	▲3	▲14.4%
	営業利益率	14.3%	17.8%	16.3%	8.8%	19.4%	12.2%	14.1%	▲2.2P	-
光学装置	売上高	124	120	108	130	115	186	113	+5	+4.7%
	営業利益	10	13	10	10	10	34	17	+6	+56.7%
	営業利益率	8.7%	11.3%	10.1%	8.4%	9.4%	18.7%	15.1%	+5.0P	-
映像装置	売上高	82	94	111	104	113	119	129	+18	+16.7%
	営業利益	▲4	0	5	▲1	2	0	▲5	▲10	-
	営業利益率	▲5.8%	0.3%	4.9%	▲1.4%	2.2%	0.2%	▲3.9%	▲8.8P	-
その他	売上高	6	8	9	10	7	11	10	+0	+8.1%
	営業利益	▲0	0	0	0	0	0	0	▲0	▲22.5%
	営業利益率	▲0.2%	2.2%	7.8%	2.0%	1.5%	6.2%	5.6%	▲2.2P	-
連結合計	売上高	349	366	381	391	397	482	404	+22	+6.0%
	営業利益	25	39	42	22	44	56	34	▲8	▲19.5%
	営業利益率	7.4%	10.9%	11.1%	5.8%	11.3%	11.7%	8.5%	▲2.7P	-

Copyright © 2022 Ushio Inc. All Rights Reserved 24



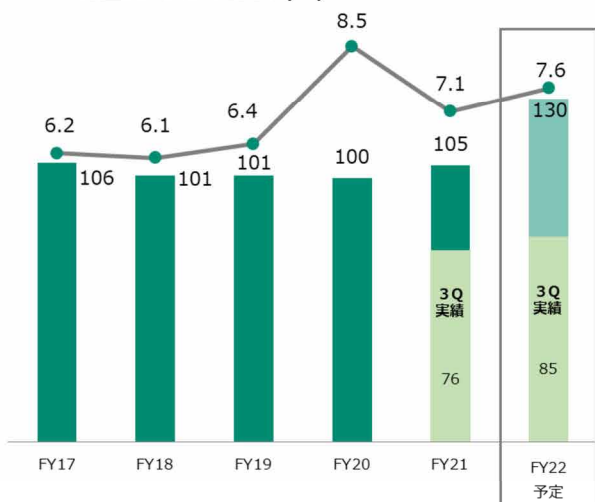
地域別売上高比率

USHIO

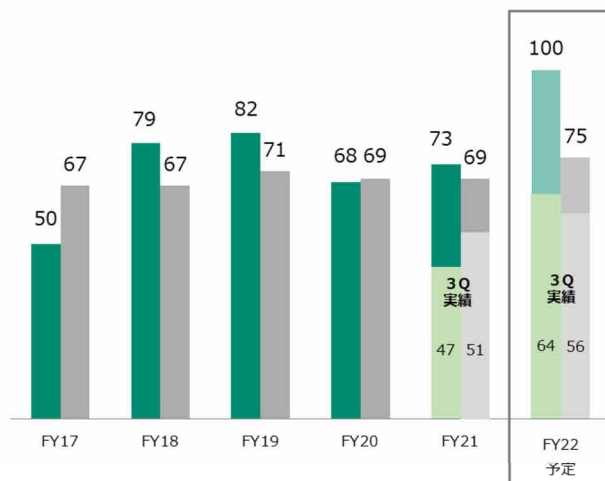


研究開発費／設備投資額・減価償却費

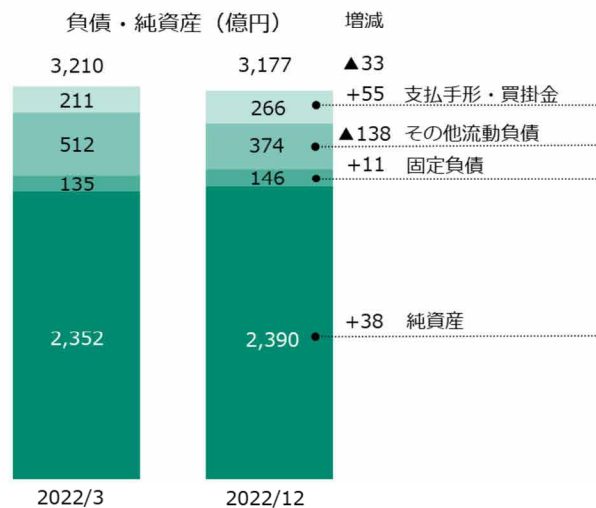
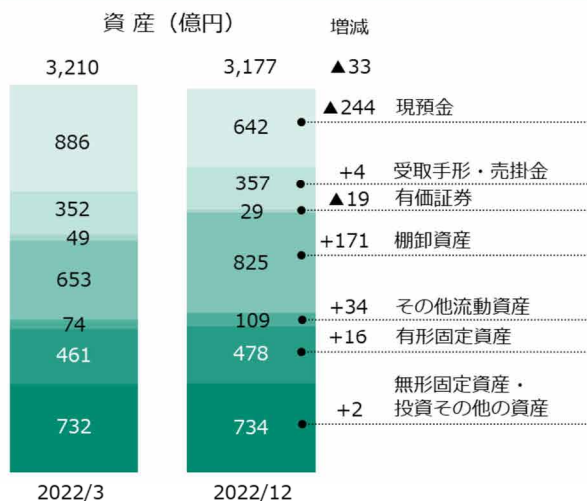
■ 研究開発費 (億円)  
— 売上高研究開発費率(%)



■ 設備投資額 (億円)  
■ 減価償却費 (億円)



# 貸借対照表

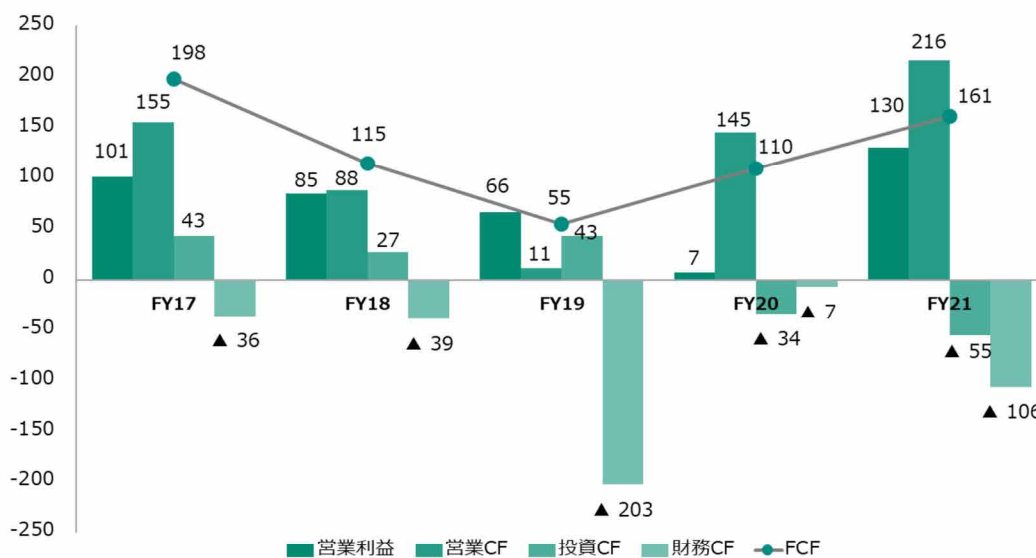


回転月数 (ヶ月)	2022/3	2022/12
売上債権	2.8	2.5
たな卸資産	5.0	5.2

自己資本比率 (%)	2022/3	2022/12
	73.2	75.2

# キャッシュフロー推移

単位：億円



事業セグメントと主な製品

USHIO

事業セグメント	主要事業・製品	製品例
光源事業	放電ランプ ハロゲンランプ 固体光源	 UVランプ  シネマ用ランプ  データプロジェクター用ランプ  OA用ランプ  固体光源 (LD/LED)  Care222 関連製品
光学装置事業	投影露光装置 ダイレクトイメージング露光装置 EUVマスク検査用EUV光源 保守サービス	 投影露光装置  ダイレクトイメージング露光装置  EUVマスク検査用EUV光源 <small>(提供：TNO)</small>  光配向装置  液晶貼り合わせ用紫外線照射装置
映像装置事業	デジタルシネマプロジェクター 一般映像用プロジェクター ディスプレイ 保守サービス	 デジタルシネマプロジェクター  一般映像用プロジェクター  ディスプレイLEDウォール  映像周辺機器

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」をリニューアルしました。よりアクセスしやすく、ウシオの現在～未来を知っていただけるような構成に整理しました。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しました。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

Renewal Point

01

個人投資家の皆さま向けコーナーを新設

シンプルでわかりやすさを意識した構成にすることで、利便性の向上を図りました。



Renewal Point

02

コンテンツの新設

当社のビジネスをより身近に感じていただけるコンテンツを拡充しました。



Renewal Point

03

IRメール配信登録機能を追加

個人投資家の皆さまにもIRニュースをいち早くお知らせできるよう機能を追加しました。



ここをクリック

IRメール配信登録は  
こちらから



AI	Artificial Intelligence	人工知能
APMI	Actinic Patterned Mask Defect Inspection	EUV光を使ったマスク欠陥検査装置
BGA	Ball Grid Array	半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板
CoO	Cost of Ownership	導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト
CPU	Central Processing Unit	中央演算処理装置
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
GPU	Graphic Processing Unit	画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置
IoT	Internet of Things	モノがインターネット経由で通信すること
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
TNO	The Netherlands Organization of Applied Scientific Research	オランダ応用科学研究機構
UV	Ultraviolet	紫外線
5G	5 <sup>th</sup> Generation	第5世代移動通信システム

＜本資料に関するお問い合わせ先＞  
**ウシオ電機(株)**  
**コーポレートコミュニケーション部 IR課**  
(03) 5657-1007  
[ir@ushio.co.jp](mailto:ir@ushio.co.jp)  
<http://www.ushio.co.jp/jp/>